

## 主 題：パウロの兄弟愛

## 聖書箇所：ローマ人への手紙 16章17-23節

パウロは16：17にこのように記しています。「兄弟たち。私はあなたがたに願います。…」と。実は、17節からパウロはローマ教会に対する忠告を与えています。確かに、最後の挨拶の中で忠告を与えるというのは不思議です。私たちはそのすべてのことを知ることはできませんが、もしかすると、このときにパウロはローマ教会が直面している問題に気付いたのかもしれないし、そのことを耳にしたのかもしれない。しかし、少なくとも、私たちがこの17節から見るときに、パウロがローマの教会に対して強い忠告を与えていることが分かります。「あなたがたに願います。」ということばは「強く促す、強く勧める」という意味をもつことばです。そして、17節には「警戒してください。」「遠ざかりなさい。」という二つの忠告があります。パウロが言わんとしたことを見ていきましょう。

## A. パウロのローマ教会への二つの強い忠告 17節

17節「兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。」

## 1. 警戒してください

最初にパウロが言うことは「警戒してください。」です。このことばは「何かに目を留める、注視する、注意すること」という意味です。何に注意するのか？次のような人たちに対して注意しなさいと、二種類の人たちのことが記されています。一つは「あなたがたの学んだ教えに背く人たち」、もう一つは「分裂とつまずきを引き起こす人たち」です。

このローマの教会の人たちはよくみことばを学んでいました。「学んだ」ということばも「知らなかったことを知る」という意味があり、彼らはたくさんのかを聖書を通して学んで来た。知らなかったことを知るようになった。そのあなたがたが教えられ学んで来たこと、その教えに背くような教えを持ち込む人たちを警戒しなさい、彼らに注意を払いなさいと言うのです。このようにパウロが言う以上、この教会はそのような危険に直面していたのです。そして、この危険はどの時代でもこの教会でも直面することです。そのような偽りの教師たちはどの時代にも存在し、彼らは自分たちの罪に満ちた目的を果たすために働きを為しているのです。

## 1) あなたがたの学んだ教えに背く人たち

具体的にどのような教えがあるのでしょうか。恐らく、パウロがここで警告した彼らが持ち込んで来た誤った教え、ローマのクリスチャンたちが学んだことに背く教えとは、

## (1) 福音の曲解 — 信仰のみによる救いを否定

一つは確実に、福音に関する誤った教えでしょう。なぜなら、パウロはこのローマ人への手紙の中で繰り返して「救いとはどのようなものか」を教え続けて来たからです。イエス・キリストを信じる信仰による救いです。残念ながら、このような偽りの教師たちは福音のメッセージを曲解するのです。つまり、彼らはイエス・キリストを信じる信仰による救いを否定するのです。確かに、ガラテヤ人への手紙を見ると、そのようなことが起こったことが記されています。1：6-9「私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。：7ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。：8しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。：9私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。」と、あなたがたが「ほかの福音に移って行く」ことをパウロは嘆いています。だからといって、ほかの福音があるわけではありません。福音は一つです。パウロが言いたかったことは「あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。」で、つまり、偽りの福音をもって人々を惑わそうとする者たちがいて、それに惑わされている人たちがいることを明らかにしたのです。

ですから、誤った福音がどの時代にも教会にあって人々に伝えられている可能性があります。パウロはそのことを警告するのです。もちろん、偽りの教えはそれだけでなく、

## (2) 主イエスの神性を否定する

これもまさに偽りの教えです。イエスはいったいだれなのか？彼は真の神であり救い主であり、そして、主であると、そのことを否定する教えが入り込んでいたのです。それはみことばが警告して来たことです。

### (3) 聖書の無謬性を否定する

聖書は誤りのない神のおことばであるということを否定する教えが入り込んできます。これも歴史を振り返るときに、そのような教えが入り込んで教会を乱して来たことを私たちは知ることができます。このような私たちの信仰の根幹を揺るがすような偽りの教えが教会に入り込もうとしていたので、パウロはそのことを知って彼らに警告を与えるのです。お分かりのように、これはいろいろな見解の違いのことではありません。聖書のみことばについていくつかの解釈が為される可能性があります。ある人はAと解釈するが、ある人はBと解釈する、ある人はCと解釈するということがあります。そして、その間に分裂が起こる、ということではありません。ここで言われているのは、非常に悪質な、しかも、私たちのいのち、救いに関わる大切な教理に対して間違っただけの教えを持ち込もうとする、そのような偽りの教師たちが存在していることであり、そして、そのような教師に注意を払うようにというパウロの警告です。

### (4) 律法主義、無律法主義、禁欲主義など

先ほどから言っているように、どの時代でもどの教会でもそのような問題がありました。コロサイ人への手紙にも記されていますが、律法主義の人たちはイエスを信じるだけでは不十分であって律法を守らなければならないと言います。また、イエスを信じるだけでは不十分でこのようなものを禁ずること、禁欲主義をしっかりと確立させなければ救われず、信仰も成長しないと、そのような教えがあることも見られます。主イエス+α、イエスだけでは不十分、何かが必要だと言うのです。また、ある人たちはローマ6：15で見たように、「それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下ではなく、恵みの下にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。」と、救われたのだから自由に生きればよいと、無律法主義的な考え方をもちます。

どの時代でも、いろいろな教えが教会に入り込んで来て教会を混乱させます。それは歴史が証明しています。そして、私たちの周りでもそのような、聖書ではない非聖書的な教えが溢れています。パウロが言うように、私たちはそのように間違っただけの教えを持ち込む者たちにしっかりと目を配る必要があります。注意しなければなりません。パウロは、あなたがたの学んだ教えに背く教えを持ち込む者たちに注意しなさいと言いました。

### 2) 分裂とつまずきを引き起こす人たち

同時に、分裂とつまずきを引き起こす者たちにも注意を払いなさいと言います。このような偽りの教えを持ち込む者たちの目的はまさにここにあるのです。教会が分裂することです。このような教えを持ち込む人たち、このような働きをしようとする人たち、彼らは救いを受け入れていない人たち、救いをいただいていない人たちです。なぜなら、ガラテヤ人への手紙の中でパウロはこのように言っているからです。5章に御霊の実に対比して肉の行ないを記していますが、5：19-20にその肉の行ないのリストが挙がっています。「肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、」と、そして、その後パウロはこのように記しています。「こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」(5：21)と。彼らは救われていない人たちだとパウロは言うのです。だから、彼らは教会に間違っただけの教えを持ち込み、しかも、救いに関する最も根幹的な教えに誤った教えを持ち込んで来て、人々を間違っただけの方向へ導き、教会に分裂を起こそうとするのです。

もう一つ、「つまずき」ということばを見てください。これは「人に罪を起こさせるもの」という意味をもっています。ですから彼らは、教会のイエス・キリストを信じる者たちを惑わして、彼らを罪の中に引き込もうとするのです。なぜなら、彼ら自身が罪の中にいるからです。このような人たちに注意を払いなさいとパウロは言います。教えに背く者たち、教会の中に分裂やつまずきをもたらす者、人々を罪へ導こうとする者たち、このような人たちに注意するようにと言います。

### 2. 遠ざかりなさい

「彼らから遠ざかりなさい。」と言います。これは「離れていなさい、近寄らないように」ということです。そのような人たちに近づいてはいけないし、離れていなさいと。Ⅱヨハネ10節に「あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。」とあります。誤った教えを持って来る者たちから遠ざかるように、彼らを近づかせないようにすることは大切なことです。

### ◎遠ざかることに関するパウロの二つのアドバイス

#### (1) 近づかないことが最善

近づくことによって誤った影響を受けてしまうからです。一人ひとりが何を信じているのか、なぜそれが真理なのかにおいて、みことばに立って歩んでいるなら、どのような教えが入ってきてもそれらを見極めることができます。大切なことは、そのように誤った教えをもっている者から遠ざかるだけだ

く、例えば、そのような人があなたの横にいたとしても、そのような教えを聞いたとしても、あなた自身が「いや、それは聖書の教えではない」としっかりと判断が出来る信仰者であること、どのような教えに対してもしっかりと自分を守ることです。でも、少なくともパウロが言っているように、私たちはそのような人たちから遠ざかることが必要です。

## (2) 目的を忘れない

もう一つ言えることは、私たちはなぜ遠ざかるのか、その目的を忘れてはいけないということです。私たちが陥ってしまう危険は、私たちがそのような人たちを見たときにその人たちに対して、彼らが滅びることを望むことです。間違った教えを持ち込む者たちに「彼らは滅んだらいい」とさばいてしまいます。大切なことは、私たちが彼らから距離を置くことによって、私たちの選択によって、願わくは、彼らがその過ちに気付いて真理に心開いて、この救いを心から信じて救いに与ること、そのことを願いながらしなければいけないのです。なぜ、このことを言うのか？次に話すことにおいて実はこのことが大切だからです。

今、私たちが学んでいるように、間違った教えを持ち込む人たちから距離を置くことはそれほど難しいことではありませんが、問題は、罪を悔い改めない信者に対してどのように扱うのか、そのことです。というのは、確かに聖書には、罪を犯した者にその罪を悔い改めるように勧めても、悔い改めることをしないで罪の中を歩み続けている者たちに対して「戒規」を教えています。つまり、彼らの罪を明らかにしてその罪から悔い改めるように促すということです。そのことに関して I コリント 5 : 11 でこのように言っています。「私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけない、ということです。」と。非常に厳しいことが記されています。問題はその後です。そのように記されているのですが、このようにも記されています。マタイ 5 : 44 「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」、また、ルカ 6 : 27, 35 「しかし、いま聞いているあなたがたに、わたしはこう言います。あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。」「ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。」、このように「敵を愛しなさい」というメッセージがあります。また、皆さんがよく覚えておられるみことばがあるでしょう。姦淫の現場で捕らえられた女がイエスのもとに連れて来られました。律法学者とパリサイ人は「律法によるなら、彼女は石打の刑に値します。さあ、どうしますか？」と言います。そのときにイエスはこのように言われました。ヨハネ 8 : 7 「けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」と。

このようなみことばを見ると、多くのクリスチャンたちは次のような結論を持ちます。それは、このみことばが言うように、「私には罪がある。クリスチャンといえども私は罪との葛藤の中を生きている。だから、このように罪ある私が人をさばくことはできない。私も罪を犯しているのだから、罪を犯している人を責めることはできない。」と。そのような考えをもっている方はおられるでしょう。そのように考えているクリスチャンは、先ほど I コリント 5 : 11 で見た「そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけない、」というみことばと「敵を愛しなさい。」という、これら二つのみことばの整合性に疑問を持ちます。多くの場合、そのようなことは考えようとしません。そして、多くの人たちは「つきあわないこと」や「いっしょに食事をしないこと」は愛ではないとして、罪を指摘されても罪を悔い改めない人たちとこれまでと同じようなつき合いをしています。

## ◎それが間違っている理由

結論を言うなら、残念ながら、それは大きな間違いです。その選択は間違っています。なぜ間違っているのかを言います。

### (1) それは制裁ではなく、矯正を目的にした愛の行為である

まず、そこに誤解があります。「つきあわないこと」とある I コリント 5 : 11 のみことばは、私たちが考えるさばきとか「制裁」というものではないということです。「つき合わない」とか「食事をともにしない」というのは、矯正を目的にした愛の行為なのです。そういうことを通して、罪の中を歩んでいる人たちがその罪を悔い改めることを願って、そのために行なう行為です。私たちは勘違いしているのです。そのようなことをするのは罰を与えている、私たちは彼らに罪の制裁を与えていると。違うのです。そのようにするのは、その人たちが罪を悔い改めるためです。そこを正しく理解していなければ、私たちは人の罪を責めるといとき、それが愛のない行為だとして実践しようとしません。

また、このような間違いもあります。みことばではなくて「情」で判断してしまうことです。私たちが罪を犯している兄弟姉妹に何もしないというのは、また、これまでと同じようにつき合っていくとい

うのは、もし、そのようなこと、つき合いを止めたりともに食事をするのを止めるなら、その人が可哀想だからと言います。ですから、確かに聖書はそのように教えているけれど、自らの情に基づいて行動してしまいがちだから、そのためにこのような間違いを犯してしまうのです。もし、私たちが情に基づいて行動するなら、残念なことに、神のみわざは為されません。もっと厳しく言うなら、あなたはみことばに逆らったのです。

## (2) 神の考えよりも自分の考えを優先してしまう

もう一つのこの考えの間違いはこれです。その人とつき合わない、ともに食事をしないというみことばの教えをなかなか実践できないのは、そのようにすることによってその人に嫌われてしまうからです。また、そんなことをするといろいろと問題が生じるのではないかと、いやだと、非常に利己的な理由です。考えていただきたいのは、イエスが私たちに示してくださった愛とはどのようなものだったかです。主イエス・キリストはご自分のことよりも私たちのことを考えてくださった。私たちにとって一番必要なことをまず考えてそれを為してくださった。私たちに必要なのは罪の赦しだから、それを与えるためにご自分のいのちを捨ててくださった。私たちが情によって行動しようとする時、私たちが覚えなければいけないことは、私たちは自分の情を優先するのか、神のことは優先するのかです。もし、私たちがそんなことをするなら友達を失ってしまう、彼らを傷つけてしまうとして行動しないなら、私たちはその人のことを考えているのではなく、自分のことを考えているのです。だから、間違っているのです。主の愛を見るなら、主はご自分のことよりも私たちのことを考えて、そして、最善を為してくださったのです。私たちが自分が人からどう思われるか、もしかすると、それによって、しばらくの間関係がおかしくなったとしても、その人のことを考えて、その人が神の祝福をいただくために罪を悔い改めるように促すことは、神が私たちに為してくださった愛と同じことです。

たとえば、あなたの子どもが何か悪いことをしたとします。盗みを働いたと、そのときにそれを知った親は「ああ、自分も罪があるからこの子に何も言えない」とは絶対に考えません。その子が間違ったことをしたとき、親としてすることは、その行為が間違っていること、それが正しくないこと、そして、そのようなことを二度と選択しないようにと、一生懸命その子に教えようとして涙を流しながら、時には体罰を与えながらするでしょう。それはその子を愛するから、その子が正しく歩んで欲しいから、その子自身が自分の過ちに気付いてほしいからするのです。その子を愛するからです。では、なぜ、私たちは兄弟姉妹たちに対してそれをしないのでしょうか？つき合ってはいけない、いっしょに食事をしてはいけないという教えを実践する、それが神が望んでおられることです。

私たちは神のみわざが為されることを信じてそのことを期待します。あなたの愛する家族が救いに与ってほしいから、彼らが救われるように一生懸命いろいろなことを試みるでしょう。でも、一番大切なことは神に働いていただくことです。そうでなければ彼らの心は変わらないからです。では、どのように神に働いていただくのか？あなたが神の前に正しく歩み続けることです。神のみわざを期待するなら、神のルールに従わなければいけないのです。自分の心を変えることができなかつた私たちが、どうして人の心を変えることができるでしょう？自分で自分を救うことができなかつた私たちが、どうして人を救うことができるでしょう？そのわざが可能である神に働いていただくために神が言われていることをしないで、どうしてそのわざを期待できるでしょう？罪を犯している私たちの愛する兄弟姉妹が、その罪に気付いて悔い改めるためには、私たちが神が言われていることをしないで神のみわざが為されることを期待すること自体が間違っていると気付くことです。結果がどうあれ、私たちは神が言われることを実践することによって、少なくとも、神が喜んでくださり、神のみわざが為され続けていくことを信じていることができるのです。だから、みことばが教えるように、罪を犯し悔い改めない兄弟姉妹とはつき合わないし、いっしょに食事もしないのです。そのことを言うのは辛いかもしれませんが、「兄弟、あなたとこれまでと同じような交わりを持つことはできないし、今までのようにいっしょに食事することもできない。あなたが罪を犯しているから、早くその罪を悔い改めて主に立ち返るように。」と、そのときに大切なことを覚えなければなりません。

先ほど見たように、偽りの教えを持ち込む人たちに対しても同じです。私たちは怒りをもってさばきをもって、彼らに制裁を下すという態度をもってするのではないということです。自分自身も同じ弱さを持っている者として、謙遜をもって祈りをもってそのことを行なうのです。「あなたのことはもう嫌いだから、こんな罪を犯したあなたのことを軽蔑するから…」ではなく、私たちが同じ弱さを持っているのです。「兄弟、あなたの罪を神の前に悔い改めなさい。あなたの行なっていることは間違っている。」と、祈りをもって謙虚に主のみわざが為されることを期待しながら、そのわざを為していくのです。

パウロはこの16節で、誤った教えを持ち込む者たちに対して、どのように接するべきかを教えてくれます。そして18節には、パウロがこのような忠告を与えた理由が記されています。なぜ、彼らを警戒し、彼らから遠ざかるべきなのか、その理由です。

## B. 忠告の理由 18節

18節「そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています。」、二つの理由があります。

### 1) 偶像崇拝者だから

「そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。」とあります。つまり、本来仕えるべき真の神ではなくて、彼らは自分の欲に仕えている、神以外のものに仕えている、神以外のものを愛している、だから、偶像崇拝者なのです。18節を見ると、パウロは「主キリストに仕えないで」と加えています。なぜ、パウロはそうように書いたのか？恐らく、この人たちは「自分はクリスチャンだ」と自称していたのです。彼らは口でそのように言っていたのです。ところが、彼らは心では違ったのです。そのことは後に出て来ます。ですから、彼らは確かに口では主イエス・キリストに仕えていると言いながら、実は、そうではなかったのです。彼らは神に仕える者ではなくて偶像に仕える者だったのです。みことばを見ましょう。エペソ5：5「あなたがたがよく見て知っているとおりに、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です。——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。」、1テサロニケ1：9「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、」。

### 2) 欺く者たちだから

18節の続きに「彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています。」とあります。「なめらかなことば」とは「口先のうまいこと」です。バークレーは「ギリシャ人はこのことばを、口では良いことを言いながら、悪い行動をする人と定義している。」と言っています。ギリシャ人はこのことばを、口で良いことを言いながら悪い行動をしている人という意味で取っています。また、「へつらいのことば」とあります。「お世辞、甘言」です。彼らは非常に巧みにことばで人々をだますのです。その後にパウロは「純朴な人たち」と記しています。純粋な人たち、だまされやすい人たちです。ジョン・マレーという神学者は「このことばは裏表のないということの意味し、欺瞞と悪知恵による企みにふけることをしない人、それゆえに、他の人々に同じような嫌疑をかけたりしない人のことを言っている。」と、それがこの「純朴な人」の意味であると言います。人を疑わないのです。だから、だまされやすいのです。なぜ、パウロはここにそのようなことを記しているのでしょうか？

実は、ローマのクリスチャンたちがまさにそのような人たちだったからです。19節の初めに「あなたがたの従順は」ということばがあります。これは後で見ます。パウロはローマのクリスチャンたちが本当に神の前に従順に歩んでいきたいという願いをもっているすばらしい信仰者であることを知っていました。従順な思いをもって歩んでいるクリスチャン、言い方を変えるなら、彼らは神の教えておられることをしっかり学んで、それに従っていきたいという思いを持っていたのです。

だから、パウロはこのような警告を与えたのです。そのような思いをもって生きることは大切です。しかし問題は、そこに同時に、入ってくる教えがみことばに基づいたものかどうかを正しく知る、その分別できる知恵がなければ、間違った教えをそのまま受け入れてします危険性があるのです。かなり前のことですが、梅田であるチラシをもらいました。それを見ると、クリスチャンの集まりが中ノ島の公会堂で行なわれるというものでした。そこから遠くなかったので歩いて公会堂へ出かけました。すると、公会堂の前に大きなスクリーンが掲げられていて、そこで、教会といわれる人たちがこのようなことを始めました。「皆さんはこれまでマタイの福音書のこの箇所をこのように聞いておられたと思いますが、実は、それは大きな誤りで、この意味はこうです。」と説明をし始めました。それを聞いていて、私はこれは異端だと判断してその場を去りました。まさに、今、キリスト教の異端と言われているグループです。その当時はまだ70年代で、日本に入って来て新しいときでした。巧妙なのです。そして、彼らが狙うのは聖書に関心をもっている人たちです。関心をもたせることは大変です。しかし、関心をもっている人ならだますことは容易です。「あなたたちは知恵がない。これが本当の教えです。これが真理です。」と言えば、多くの人々がそれにだまされる可能性があります。

ですから、周りにある異端はみな共通していませんか？皆さんの家にやって来るグループにしても、皆さんがクリスチャンですと言うと喜ばれるでしょう。聖書を勉強していると言えば喜ばれるでしょう。なぜなら、皆さんをだますことは容易だからです。もし、あなたがしっかりとみことばに根を下ろしていなければ…。だから、パウロはエペソ4：14でこのように言うのです。「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、」と。根がしっかりと下ろされているなら、どんな教えが入って来ても揺るぐことがない。しかし、もし、根がしっかりとしていなければ、いろいろな惑わしによって惑わされる可能性があるということを見ことばが教えています。

パウロはこのローマのクリスチャンたちが本当にすばらしい願いをもって歩んでいる信仰者であるこ

とを知っていました。彼らは神に喜ばれたい、神の前を正しく生きていきたいと願っていました。しかし同時に、サタンが狙うのはそのような人たちであることも知っていました。そこで、このような警告を与えたのです。そして、その警告はあなた自身も耳を傾けなければならない警告です。だから、私たちは何を信じているのか、なぜ、信じているのかを知らなければいけません。だれかが教えてくれたから、だれかがそう言っていたからというのは非常に危険です。聖書がこのように言っているから、神がこう教えるから私は信じると、私たちはそのような信仰者へと成長していくことが必要です。

なぜ、パウロはこのようにことを忠告したのでしょうか？それは、このような教えを持ち込む者たちは偶像礼拝者であり、彼らは欺くことを目的をしている者たちだからと言い、注意しなさいと言うのです。しっかりと目を見張っていなさい、彼らが持ち込む教えが正しいのかどうかしっかりと判断するように、賢くありなさいと、そのことが19節からパウロによって教えられています。

### C. パウロの願い 19a-20節

ここにはパウロの願いが記されています。「あなたがたの従順はすべての人に知られているので、私はあなたがたのことを喜んでいます。」とあります。パウロはローマのクリスチャンたちが益々従順であることを願いました。主に対して従順に歩み続けることを願いました。なぜ、従順が大切なのか？

#### 1. 従順は救われた証拠

従順はその人が救われているかどうかを測る証拠だからです。主に従順に歩もうとしている者たちは、救いに与っている者たちです。パウロはローマ1：5で自分が使徒の務めに召された理由をこのように記しています。「このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。それは、御名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためなのです。」と、言い方を変えるなら、人々が救いを得るために神は私をこのような務めに召してくれたと言っているのです。救いは従順をもたらす、従順な生き方です。ですから、罪を赦された者の特徴は神に従順に従っていこうという思いをもって生きていることです。今、敢えて、このように言ったのは、この中ですべての点で完璧に従順に従っている人はいないからです。しかし、神によって救われたあなたの中にはそのような思いを神はくださったのです。神に喜ばれることをしていきたい、神が望んでおられることをしていきたい、みこころに従っていききたいと、そのように願っていながらそのように生きていない自分との葛藤をいつも経験しますが、少なくとも、そのような新しい思いを私たちは神からいただいたのです。救われたからです。

#### 2. 従順は神を喜ばせる生き方

同時に、従順は神を喜ばせる生き方だからです。ですから、パウロは「私はあなたがたのことを喜んでいます。」と言います。ローマのクリスチャンたちが救われていることが、多くの人々に伝わっていることをパウロは聞いて喜んだのです。そして、その上で彼は次のような願いを記しています。「しかし、私は、あなたがたが善にはさとく、悪にはうとくあってほしい、と望んでいます。」と。

##### 1) 善にはさとく

「さとく」とは「賢い、分別のある」という意味です。つまり、善に対して賢く見極めることができる、何が正しいことなのか、何が神の前に聖いことなのかを見極めることのできる知恵のことです。ですから、聖書に基づいた洞察力、識別力、それらをもっている人です。敢えて、「聖書」を強調しているのは世の中の知恵で見るとはならないからです。いろいろな状況の中で何が神の前に正しいのか、みことばが教えてくれるみこころと合っているかどうか、そのように見極めることをパウロは言っているのです。これはまさにローマ12：2でパウロが教えたことです。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」、あなたが神によって救われたことを覚えるなら、そして、そのことを感謝しているなら、あなたのこれからの信仰者としての生活に必要なことは、感謝をもって何が神の前に正しくて、何が神を喜ばせることか、それをしっかり考えて選択をしなさいということです。今、私たちはそのことを見えています。パウロが言うことは、従順でありたいと願っているあなたに必要なことは「善にはさとく」、何が神の前に正しいことなのかをしっかりと見極めていきなさい、そのように生きていきなさいということです。

##### 2) 悪にはうとく

同時に、「悪にはうとくあってほしい」と言います。「うとく」ということばはピリピ2：15では「純真」と訳されています。「それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中であって傷のない神の子どもとなり、」と、汚れがない、混じり気がないということです。つまり、この「うとく」とは罪を混ぜ合わせない、罪によって汚染されていない、罪によって汚れていない、つまり、聖いということです。ですから、パウロが「悪にはうとくあってほしい」と言うのは、あなた自身悪によって汚れることがないように自分自身を聖く守っていきなさいということです。Iテサロニケ5：15、22「15 だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、

いつも善を行なうよう務めなさい。…:22 悪はどんな悪でも避けなさい。」

信仰者としてどのようにあるべきか、従順に歩んでいるあなたにパウロが与えるアドバイスは、何が神の前に喜ばれることなのかをしっかりと見極めていきなさい、そして、悪はどんな悪からも離れなさい、あなた自身を聖く保っていきなさい、そのようにして歩むことがまさに従順に従い続けていく歩みだということです。

今日、私たちはパウロの警告を見て来ました。なぜ、パウロはこのような警告を与えたのか、パウロはローマのクリスチャンたちを愛していたからです。ローマのクリスチャンたちが正しく歩み続けることを望んでいたのです。彼らを愛するゆえに、彼らが注意しなければならないことを教えたのです。その教えをもらったローマのクリスチャンたちは大切なことをパウロから聞きました。皆さん、私たちはそれらを通して大切なことを学びます。それは、私たちが信仰者として生きていくために「何を信じるのか、なぜ、信じるのか」ということにしっかりと立つことです。そうでなければ、いろいろな間違っただけの教えに惑わされてしまうからです。そして、二つ目には感謝をもって生きることです。そのことをパウロはローマ書を通して常に教えようとして来たのです。感謝をもって生きる者になりなさい。すばらしい祝福を神はくださったのだから、感謝をもって生きていきなさいと、そのことをここでも私たちに教えてくれるのです。神によって与えられたすばらしい救いを感謝する者として、この神とともに生きることができることを感謝する者として、感謝をもって生きていきなさい。しっかりみことばに立ちなさい、真理に立ちなさい、そして、感謝をもって生きていきなさい。それが神があなたに望んでおられることです。

信仰者の皆さん、この一週間もそのように生きていくのです。そのときに、神のみわざがあなたを通して為されていくのです。周りの人たちを変えようとするよりも、神のあわれみによって自分自身を変えていただくことを望んで、主に従い続けていくことです。どうぞ、この一週間も主によって贖われたことを感謝する者として、主にしっかりと従い続けてください。主の祝福が皆さん一人ひとりにあることを願います。

#### 《考えましょう》

1. 偽りの教えから自分を守ることがどうして大切なのでしょうか？
2. 偽りの教えに惑わされないためにはどうすればよいのでしょうか？
3. 主に対して従順であることがどうして大切なのでしょうか？
4. 今日のみことばから、あなたが教えられたことは何でしょうか？

パウロは